令和4年度　重点的に取り組む事業

資料４－２

センター名	中津川市地域包括支援センター
事業名	介護予防・日常生活支援総合事業通所型サービスC 短期集中予防サービス
現状	介護保険サービスの利用を開始すると、卒業することなくサービスを使い続けている
課題	生活に不自由さを感じ始めた時に、指導を行う体制が整っていない。
目標 （目指す姿）	高齢者が生きがいをもち、住み慣れた地域で自分らしい生活を送れるようになる。
対象者（重点）	要支援1・2　介護予防・日常生活支援総合事業対象者
取り組み内容	医療・保健の専門職により、筋力向上や日常生活の困難さの解消を目的にセルフケアの指導を実施し、終了後の自立した地域生活に結びつける。

センター名	中津川市瀬戸の里地域包括支援センター
事業名	苗木あったカフェ(認知症カフェ)
現状	コロナ禍の影響で地域行事の中止が続き、地域サロン・出張予防教室の再開にについてR4年4月時点で17地区中2地区のみが再開、9月現在でも区長や地域関係者らも再開には消極的であり、地区内で地域との関わりが減少していることに苦慮されている。 また介護サービス利用者の認知症に関する相談や、サービス未利用者、何らかの支援が必要と思われる方等、近所で集える場所がなくなり地域との接点が減少した高齢者についての相談が増えている。
課題	住民同士の関わり、近所で集える場所がない。 介護保険申請者やサービス利用者と地域との関わりが少ない。 フレイルの進行、認知機能の低下、地域住民の理解不足がみられる。
目標 （目指す姿）	各々がコロナ感染対策を理解しながら、誰もが立ち寄り集える「まちの交流の場」において、地域住民が主体性を持って協力しあう地域。
対象者（重点）	・認知症の心配がある、不安を感じる方とそのご家族 ・介護保険申請の有無に限らず地域と繋がりが薄い認知症高齢者 ・地域関係者、ボランティアに興味のある方
取り組み内容	・コロナ禍においては飲食を伴うカフェスタイルの代替えとして、認知症予防ミニ講座を開催。講座内容をコミュケーションツールとして、認知症診断を受けている方でも自然と交流をしながら参加へ繋げている。 地域の中心部である苗木交流センターで開催することで、センターへ訪れる方々や若い世代へも活動の周知となる。 ・毎回、認知症に関する資料やポスター掲示物及び脳トレプリントなどを用意し、認知症診断を受けた方や判断力の低下した高齢者 も活動に参加、またその家族も参加しやすい雰囲気で、カフェから他予防教室や介護保険申請へと繋がる場所となっている。 ・第2層生活支援コーディネーターやと協働し、参加者の声から地域資源の模索、生活体制整備へ繋げていく。 ・余力のある方や若く元気な方、民生委員経験者の方々は今後の地域の担い手として協力参加へ繋がっている。 ・協力者参加者の垣根なく、皆が準備から片付けまで協力しあい、主体性を助長していく。

センター名	中津川市ひだまり苑地域包括支援センター
事業名	坂本地域包括ケアシステムネットワーク会議
現状	各団体における高齢者支援活動は比較的活発に行われているがお互いの活動内容の把握や連携しての支援が少ない為、地域の中で医療・介護・福祉・予防の連携ができるように地域包括ケアシステムネットワークの立ち上げが必要である。 認知症高齢者への理解や支援、社会参加などは十分になされていない。
課題	地区高齢者の支援を積極的に行っている団体がいくつかあり歴史もあるため、ネットワークづくりの意義や地域包括がネットワークづくりをすることへの理解を得る方法に苦慮している。 事務局の立ち上げにむけて準備会議を予定していたがコロナ禍による会議の中止等により延期となり開催に至っていない。
目標 （目指す姿）	坂本地区高齢者が認知症になっても住み慣れた地域で自分らしく生活できるように継続した支援体制を構築していく。
対象者（重点）	地区の高齢者専門機関や住民組織・民間企業など
取り組み内容	各高齢者団体との情報交換や意見交換を行い、認知症の高齢者への支援を軸にしたネットワーク作りの説明を行っていくこととした。 事務局候補メンバーへのネットワーク立ち上げについて説明を行い事務局の決定をする。 事務局会議において本会議の在り方などを決定。

センター名	中津川市ゆうらく苑地域包括支援センター
事業名	実態把握を通じて地域ニーズ把握と地域包括支援センターの周知
現状	ここ数年、新型コロナウイルス感染症の流行により実態把握訪問が新規及び継続も含めて訪問数が少なくなっている。
課題	・実態把握を通じての地域ニーズの把握が減少している。 ・新規独居及び新規高齢世帯の訪問がここ数年少なくなっている。 ・地域住民との顔の見える関係（信頼関係）が築きにくい。 ・地域住民へ「高齢者の身近な相談窓口」として、地域包括支援センターの周知不足を感じる。
目標 （目指す姿）	新型コロナウイルス感染症の流行時でも出来る活動を行っていくとともに、実態把握を通じて地域住民からのニーズ把握を行い、課題分析し、地域ネットワーク作りや支援センター事業へ活かしていく。
対象者（重点）	・65歳以上の独居、高齢世帯 ・70歳前後の新規独居の方及び高齢世帯 ・地域の出前講座の参加者
取り組み内容	・4月から実態把握訪問時に簡単な聞き取りアンケート調査（任意）を行っている。 聞き取りアンケート調査の途中結果を相談協力員懇話会にて発表。 アンケート調査については、生活支援コーディネーターと共有。 地域ネットワーク作りに活かしていきたい。 ・新型コロナウイルス感染症の流行時には、70歳前後の新規独居及び新規高齢世帯に対して地域包括支援センターのリーフレットや各種介護予防情報のポスティング実施。

センター名	中津川市シクラメン地域包括支援センター
事業名	介護予防教室(減塩について)
現状	令和3年度に阿木地域包括支援ネットワーク会議(通称：ごちゃまぜ会議)で行った、阿木地区高齢者福祉アンケート調査結果から、健康への関心が高い人が多く、特にバランスの良い食事に気をつけたいという人が多かった。また健康づくりに関する講座に参加したいという人が多くあった。
課題	食事や栄養などの情報を得て地域高齢者の方が今後もバランスの良い食事に気をつけ、健康で生活できる様になる。
目標（目指す姿）	減塩プロジェクトを展開しているが、地域への介入を進め健康づくりに取り組む。
対象者（重点）	地域高齢者
取り組み内容	介護予防教室や健康講座の機会を通し、減塩についての情報提供や高血圧など生活習慣病の予防について講話などを行う。地区で統一した内容で行う。

センター名	中津川市北部地域包括支援センター
事業名	介護予防教室の充実・多様化
現状	介護予防教室が地域によっては参加者が少ない状況が続いている。
課題	地域のアセスメントができていない。
目標（目指す姿）	地域の実情に合った介護予防教室を開催できる。
対象者（重点）	利用者の少ない介護予防教室実施地域
取り組み内容	・利用者の少ない地域のアセスメントを実施し必要に応じて開催場所を変更する。 ・生活支援コーディネーターと協力し介護予防教室を通いの場づくりのきっかけとしてニーズのある地域で開催し、可能であれば地域の方に引き継いでもらえるような支援をしていく。

センター名	中津川市北部地域包括支援センター
事業名	介護者家族支援の強化
現状	相談内容で介護者家族の支援が必要なケースが増えてきている。又内容も複雑になってきていて包括内だけでは対応しきれない事も多い。
課題	支援内容が複雑で困難なケースで、繋ぎ先が分からない事もあり適切な支援になかなか繋がらない。
目標 （目指す姿）	当事者・介護者家族も安心して暮らせる支援ができる。
対象者（重点）	介護者の家族
取り組み内容	・自包括で情報を共有し検討会の実施。 ・各包括、直営包括とも情報交換、事例検討会を実施。 ・地域ケア個別会議でケアマネジャーから事例を挙げてもらい専門職からの意見を聞き今後の支援に生かす。 ・ケアマネジャーからの相談があった時、可能であれば同行訪問し家族のアセスメントを行う。ケアマネジャーと連携して対応していく。